花廼志満臺第三編巻之下

東都　松亭金水編次

第十七回

宿ハ雪ふりまさんで。嶺よりくさ人しる。
けぶりで。見てあはれとぞ。向川所と。
の裡ゑるまどぶ。九天二間にあるぶん。同ハ松宮寄者の座
敷けん。二間うち三間の部屋ゆくぷと。藤ひれどゑ。
浮彫の石の多水鉢。義の神垣蘭天の。相ゑ

ちゃうへ相のどんどまるる楼橋。いづれ常盤の藤棚。いろ
ねぶ木の植物ハ。ゆるゝ〳〵ゆかれる。どうもう
ちゃうへ坊主ふ。三千世界の奥ゆく。寂寞と退散と
いちもどまうきゃくの人物。彼方こちらを何ひく 付モシチト
お情ケ。此処ふ鳴安のゆまえんといふがどうり
まうすナト問ふく ゆまハ門口まけ ヲヤ。トあとあと
〳〵ぢんアノ手毒多の強ちさんどやアどうもせんうへ
注〳〵注ちゃく。どうさ何も土産ハ猫ぢ毒ぐんぞとも

ぞ者ア あらう。自己ホ僕ぐもあり八去まい。
しかあらうまいが。僕ホ知りひまるい お方のお知で猫
を使ぶ。まゝこ。ア ひ方へおんるもい。是頃ハモウ
どんぞう 四源切よ。僕ホ面んで。ぞ。ア。ぞうホ お金や何う成
いつぶ丸まゝこのホ。蔭く まゝ丸もゆませんで。猫ホ ユウ 知れ
の毒でぶぶまゝ。ぞうし四特猫 まくゝて おめでこう 猫 不や
ハヤ 僕まうい四特猫ぐ よくもあい。ぞ 金に 別家ぐ
だかりサ 文ぞる 不ア ぞまぐ 知ぞう ぞぶぶまゝ。家く おめんド

ぐさまつく。命文も珍
敷くて、ちょうと、へや。方丈
ぐ。それ、ちゃ。イヤ何のかとさだん
年も世ねうの氏可愛そうんぐ。ちっし今ぐ大分響す
角の上下やくとらるる。それ引入。ぐさるの仲為
イヤハヤ幽しいもるね。ぐさ。るへ。おまえんのるも。他う
ぐ。ぐまるぐ。アノ。おいさん西れ。おぐ知るえるさうぐさいます
ぐ。へナニ。ぐ。ぐ。ぐ

ぞうり。情人ちゃ。さぞ おりろうぞざこまさ〻ん
注へ 左様サ 情人ホなつ〻 面白ろうが。俗ぞもあへうう
注まう〻〻ぞ 左様ホ。 一ぞ まぞ〻〻 ぞ 切ぞ おぞ出ぞ
それ 夫よりう ヤア 癌情だ〻〻 ぞもるそいナ 注へ〻〻 ぞ多う〻ホ
ぜひ 見飛み ぞよりぞぞサ。 有様ホひひや世う。実ホ ぞ多人ホ物見ぞ
どうぞ世 注ぞ いい〻ぞ門ぞく。 お客を ぞぶく 情ぞ。 ぞ茶
ぞ田 見ひ ぞけまぞ。 ぞ人ホ 他ホ ぞ ぞりんぞうう
しまう 第和 ぞれぞ。 ぞ むぞ ぞく ぞう ぞ ぞる ぞ。 ぞ客

めが。かうしまる目つ見を考へり。仙ろ〳〵ろ〳〵お羅を着ろう。笑
をまろ袴へも換ぐうとおりの つくく。終一ロ機んぐが 病つきだ
時人ホ赤月をんまべ。きと 外腹とやったりされて 捨るやア
捨らまべ。そのうへホ 貢 法師の。学金ぐ 欲しいのあんのと
きろ 物る 鑽を吟のを。きろ 番とものそれ 袴へくく。三面十めんに
ほる 絵金を 出ひるして。祝りみぐろ屋ホお帯 ハ〳〵
イヤ 鶏ひごどや夢見。そまろ 浪く 新金も 鶏く 高て
虎ど 蒔ろ 浪く 通りホ。法まろくるぼ。法まろくるとサア

世の
彼奴めが。日ごまく方
ちいて。多く歩くまくまで
ぜ一ぺ。多代働らき
まうた。まくまで
ぜ。ハ。ぜんぜんぜ。何代いふ
ぜ。ぜんぜんぜ。ぜんぜんぜ。
ぜ形容詞。人情多方。奴で。待金のみ。ぜ。元金笑
ぜ。ぜんぜんぜ。ぜんぜんぜ。
ぜ。ぜんぜんぜ。ぜんぜんぜ。
ぜ。ぜんぜんぜ。ぜんぜんぜ。

ありくまはせん。おもをぶくろんかをとこ云ふ。「どうぐ云ふ

世界ひてへ。離色の出来うちハ根こそぎ抜きこ。ア云

まつくうろ歩く突出きこいふ根の奴ア。人間の皮を被つ

ちくしやう高生ぐ。ちうしこ生物の奴に引かうさのが不思議。どうも

論方ハ人ト武ひハ怒り事るひハ歌さて。影すとさけば

こまる

小まハ物知ら不使ふ。泡切とまハ丸ぐ丸の

考

気しくさを吸とりて。僕ぐうも恵ままし。昔の二を見

ひやれば。ろ泡ふ不に也ふさまぐ。なのハなくとも酒一口。春

しゝ屋さんと猪屋さんへ出た。つゞみ屋さんと生酒屋さん。隣の老母を情まんと。つゞみ屋さんを呼び見さんへ猪屋と御しゝ。歌子あやまれば間のまゝ。ひろうのうちふ。つぶやきく。「落古さん」どゝ。ちゝと出まで。惜くまゝ。どうぞ堂の名を付て

ん

出まゝ「ゝ」ちりやう。お易イとぐぶ。笑しく新米

かまつて。高ん高ん。新米やアモウ。切りやを。高ん八切て

ぶりぐろ。實りと。あゝいナト。高粱く。鶴ト猪。角の

酒屋さゝや。接下の。ゝ。味屋をかけ。ゝ。取剃刀を船へ

解ぶ所ちがうと言ふよりは。まづ浦と鳴る鳴門の門口「おたまさん」
ちがう
見うと。時の時間もちがうやうなこと「ヨウ」おちさんウサア「あげりゃ」
言へ「イヤ」今の見に「おもの紙一人」見て来たらう。「ヨウ」
言へ「おもの」ちがう時「ナア二」言ふ「ふ」初りでもあのいが。「ア」
人ぞヨ言へ「ふ」あんまり長話でもあるまい。浦戸紙する上紙
治さんが言ぜ言へ「そりゃア大丈夫ヨ言へ「ヤア」一ぷく飲で宜
だらう言へ「いろ」人と言ぐとすると「どぶ」女同士。さぶらはせて
ちまた。「ロ」鳴り。「ア」長くあるのハ女の癖。留守ハ

牡蠣ごうく。牡蠣の焼よ高胡坐。皇の横をを祝た
を祝く。あるうどん如ハ牡蠣ゑくて。玉の楽こハよこと。生涯の
ちうく体為と。今の格子ハ雲泥万里。お姫さゑと色男ゑど
ちゞ
遠ふハ。こまも石筋紙治ゞ姫ひ。町人風情と俗どつくも
こちとら
此方人等とハまさ格別なもの。どうこと。こまゑ。あれ程
骨牌柳さけまど。鹿といくそ紙ハ〻山知ごゑ。又こびらを
こも是ハふるいゞ。手竟いくゑ。そのあこゞ。こゞこと外りゞか
きち
ゑよ答つ。あげくの果に体為ふ。あること。こうよもおまゞ

中者

上畳
むすめ

発端。おもへば勝きとかめと。ふうふぞと知るまで膝四の。物語迫りし
その所へ「モシ　チト　お情ここやまを。昭氏　新八三郎殿。情まれ人家
きこゑ。少まきさんのおもかとちゃ。びびりまするとと青ものふ
賛小　法ちゃ。門口をあけてゑんなる。年の比三十ばかりの男参
ものを。今ちゃ。ゆ門ゑ迫せませう。ゆ門ゑ迫せませう
彼の男「ア　こちらでござる
志賀。申うゆと。おとゑ　法「アイ　義十やせうと

一云 彼城かへしく復命城。ようくゝ足るゆゑ少まどの。紙張ちり
と濃ゆ有り。丸めくゝと封切て濃くごせば。此
物本しらるとふつき。孤政様ゆくゝ重んとの女作。日名に
ひよくく稚こゝ尚ちとそ僕健かくゝ重くく。蹴蹴しと
ちんのものと稚ちくゝ丸ハ物の魂と懐中。そちら
ゆ新ゆ羅ゆ西へ。是ゆと言ゆくゝ稚ちさん
さぞお待ちぞありまくゝちら。ちくゝ後あぞの所へ
ちら尚ちるゝ遠くまりまゝ。ちゝまぞ待ゆ中ゆ来ゆ

ゑ　注「ナニ」どうぞ　私（こそ）　ゆ（ゆ）ア（ア）ア（ア）　用（よう）の　ぞ（ぞ）ん（ん）　ぞ（ぞ）ん（ん）　ゆ（ゆ）ア（ア）ア（ア）

か

ア（ア）ア（ア）　そ（そ）ー（ー）て（て）　ア（ア）ア（ア）　さ（さ）ん（ん）　ア（ア）ア（ア）　さ（さ）ま（ま）　ア（ア）ア（ア）　ぞ（ぞ）ん（ん）　ア（ア）ア（ア）

ア（ア）ア（ア）　ア（ア）ア（ア）　ア（ア）ア（ア）　ア（ア）ア（ア）　ア（ア）ア（ア

ちゃうさんぞ。そなたこそ。まことに極楽のものぞ。さてのどくるへ
さて我ゆかんぐ。なるほどいかもの味のハるばるげな。さむい
うち一口あげやうと。なるほどサア。きえかゝるぞ。おもしろ
ものぞうぞ。ぜひよく滑くなるまもなく。えんどうの
ちまきを入れておくんなさいト。鍋の蓋を。ぐつ〳〵
いくぢうぞ。ぜひ。ぜひ。注「ぜひ」ぜひ。注「ぜひ」ぜひ。注「ぜひ」

ス
ゑ
ゑ
ゑ

とゝゝゝゝ。此一ツ物語ハ、あるい如ぐ、そゝゝゝでも、ゝゝゝゝ一ト
しき　のぐせ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝゝゝ　ゝゝゝゝ

んざ。あんざ　おまくんが　恒物ふ　きくお長　きッくも
どくの　長種ふ　ゐくゐ　義理ざ　くゐ。　絵方ざ　ありません　ものゑ
注「イヤ　そもも　理サッ　みるゐ　ゐ　義ふ　くゐ　つまゐ　ゑ
ゐゐ　ゐ　ゐ　出して。　形　開　ゐ　花　ゐ　の　酒ざ　裡ふ　おちく　ゐ。　まく　ゐ
ゐ　止ゐ　ゐ　ゐ　せう。　さ　飄　酒　ゐて　長る　間ふ。　日ざ　ゐ　ゐ　ゐ
ゐ。　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ
ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ
ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ
ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ
ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ
ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ
ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ
ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ
ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ
ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ
ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ
ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ
ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ
ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ
ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ
ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ
ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ
ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ
ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ
ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ
ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ

ちかの
辺の方へ初めまるそのうち。チット
きき
乾〳〵いそがしく。書式初めひ出しして。何ぞ
ゆりとも
なるへ〳〵そんなもの
ゆう
歳月まで
おかしなまいナ
ゆへ〳〵
ちかい
ちかく
あん
見まね
えぞ〳〵見まね
まねごとらう〳〵。ドン
ゆりませうト
ちかく
ひろく
ゆへ〳〵ちかい出うう

第十八回

ちかき
ちかさの八衛門。
えんぎ
縁日
まさる
繁昌の。土地とい
ちか
ひ
ちかき
ちかく
ちかぢか
ちかい
火除の
ひろい
ひろ
ちかの
ちかい
ちかき
ちかく
ちかい
ちかの
ちかい
ちかき
ちかく
ちかい
ちかの
ちかい
ちかき
ちかく
ちかい

久方傳ふ清き漫々と。ゆきて流れ出る水の樣なる前も多くうつり。かくて強ふ
ものの國らぞの。おもしろき樣ふ芽はと。まちよ晴くまと酒さげ。ぶぐく
久ゆる。おもふよりう。秋寒くうつくしく來る人数。誰ぞと云ふ門前の
ものの物語けまでと給ひしまき。和尚一法師ありけるが。法ふくとと云
ありて。こゝに多くかけんとおもひしぶ。二月三月改く暖巡て牡
丹ぶく。やうやうまく溢脊ゆう。通ふまかけく物もい
まだ。懷へ多くさし入まぶ。和尚一ハ腕式つぶく
ひとぶ人數しく叫けど。ぶぐ人ふ茶ぶ。拔きくまく
の「ぶ」逸樂く

どうぐ落ちず、撥に成て、高門らと、押へ、ゐの「アゝ」ぐまぐく。行く成するのぐ。和八
その通りの、廣人ものの。殺生、含も、持て八、居ら。てゆきて、ゐる
ゆき
作けて、こまと、ト、往ひまり、成、落ちハ。で、一、ゐも、物ハ、ひそび、持力に、往
して、撥、往せべ。元来、甲変、ゐ、小、育の。爭で、敵、対べ、ゐ
ら、ゐべ。そゝへ、倒まく、ヨアイリ、叫くく。叫くゐりまて、和八、ゐ
そのゐ、ぐゐく、ゐのいち、ゐゐ、ぐ、ぐゐまゐ。ゐゐ
ゐ、同ハ、落ちハ、和く一が、懷成。撥りて、江、ハ、和の色ゐ、家、ハ
ゐまゐ。どゐ、ゐ、ゐ、

きりきり切羽詰まり。極へ詰びくく蔵くうまとど。幸ひのくく引返す
まべ。えんどうふうづりまでも。命にかるとこくく。汲干場され
つうこる来朝の。ほ臭ゆくくどくくあん。を素しりけり強
ろ。おもそ見てやる。二三町逃さんりく。かの朝色ようり高ひ別に金
をべ月にすうーを見て逸へくく物の周囲ふあうをくくの。彼
つうきまうづ。あれ奴等。掃部しくく自色を編ーく。ものの角ごのうと多戦つけた
ひさか。まの貪ーまを。コこの金。自色ぜんと自色ぜんと。あるとうくく
きうう寄物ごくく。物くあくくくくくね。理ごうくく。アノ立ぎ歌源く

なお 帰よ 戸をあけて 出てゝみて。雨うつと。風強く
ふるふ。形ぐさ 雲 長くたなびかりて。まづ 夜 ゆ
ドレこまとりくる 月形ぐもとりまくこと。山 一だん 強く見 雨
う。アいまくそまりふ。月の有 をするが 宜 ト 長 物
え
美くゝ 金 その金。懐中 そぞ ものく

作者曰 ちの 書 帰 が でゝ ぺと 揚 べき 玄 児
ちりとらくぐも。人 天 機 かくのごと。僅の 霊 後 美 性 と
しく。悪 漢 士 紙 雑 ゝ。後 の ゆる 隠 ゝ く 見 金 ゝ り

紙書るゝ。ゆゑに名地雖の長くなりて。数人渡り
わるひく摩す。絵ふそその赤瀧を切く。ゆまと池の姫五
と編さんと汁滝。門摩難くべし。不義の冨家ゆく薄
ゆる雲のごとくといへ。孫ずして海ゆるるのく逆失
るるべし。然まど一旦の悪ゆく義ゆくて。国ひ境
男紙徒とする少あまど春その性を悪ゆくて
不ゆの愛員をつくるも。わるべし。既みて和く一がかる愛
見紙つくるも。猫の周果のめぐまるなり。人々異ひ色

ゐくと。いくぶさ作者ぶ出にも。善悪善悪
めく
悪とー。あるひは周果の居姿紙説て。初色兎の
とすると。文を撰るの行動と。著作撰ふ遊ぶ。
ぢ
殺人の屍。事実ふかりく半紙下
ぢ
ぢ
ぢ

てをとこ手ぐら笠れあるせ門。もの角の一ト見あ
ふ。そのふうきく。これうぐいす二人のあハ。是紙屋とおたてあり
酒くらかゝ長
ハ「モウ」きをうるもんぐるア　をを〳〵　をんなをんがつ、まをちち
ゐる　どを　ゐ
ヨトいあとをやぢうこけみまん　ちこと　ちこと　ちこと
十二子　ちとりあめ。をを藤　ちちとで　ちをく。ゆも。ちぐの角ぐのとを子ゐが
とををうう遅うぐぐハまをのサ　ハ「イヤ」遅いゆも　ちを　ちをが　ちをア
ちををぐ　ちをう　おい　きの　そのと　いひ
ぢをの　ちを　ちく。ぢ日　ちぐく　ちをを　ちを云ち

やと　為ると　為ごろう。　亀吉　御免！　と言って　亀吉　今自由遊ぶ

やうなこのごろア。　それと　亀吉　と　いふ　一番　ヨウ　若人　トいふ

ら　酒屋の　おかみ　ヨウ　生意気　白川町へ　仕事　稼ぐ　人が

ちよつと　亀吉　と　言ひ　まして　えんざう　女　八人　トやげて　手男　と　喧嘩　男　女

おかみ　仕事　くらまして　人う　大変　乃者　男　ひと　どくらう　女　のこ

コウ　おかみ　死　何ぞ　離を　男　八人　トく　自宅　いづれ　二人　トキ　二

ちよつと　ちよつと　向川町の　小まつり　何と　言ひ　男　八人　何う　三十余　よ

の　お稽古　ぢう。　お手　御免　亀吉　ちよつと　逃げ　ぽつと　逃げ　まして　稼ぐ　男

ゑ。やはり　どあいきり　ゆ　ゑ。　ゆ　ゑ。　ゆ　ゑ。

とうの事うす者でもぐぐいませんぐ
そうそやア者人
花おくらぐ。そうそ所ハかうアーミ人
ぐぐ。ぐぐ。ぐぐ。
実ぐ者ぐぐ。男ぐ者くッて金ぐ者ぐ
ぐ。ぐ。ぐ。
見ぐ実の者ぐ人ぐ者ぐまもハト紙屋ぐ者ぐ
ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。
ぐ者ぐ者ぐ者ぐ者ぐ者ぐ者ぐ者ぐ者ぐ

いそ屋ちやうの戸お作（きさく）様へ男へ（をとこ）〳〵且那（だんな）一分（いちぶ）さしあげますせう。と

と仰（おつ）しやる。其（その）一遍（いつぺん）仕（つか）まつる。治（ち）二（じ）郎（ろう）様（さま）ぢや。

私（わたし）へ。お作（きさく）様（さま）。近（ちか）ごろ。森（もり）の所（とこ）へ。ばかり。通（かよ）ひ。

来（き）て。居（を）ると。治（ち）へ。言（いひ）ふ。

伝（つた）へ。さう言（いひ）ふ。

伝（つた）へ。ぢや。

伝（つた）へ。ぢや。

伝（つた）へ。ぢや

ゑ場ゑく。作ポイと長八ゑ。おの長の子ゑ夜八ふ。勝ゑり。見
て。川ゑ出も。おりこゑる。さんる。流サ。ゑ行ゑ。ゑ
ゑ行ゑ。ゑ行ゑ。ゑ行ゑ。ゑ行ゑ。作ゑ行ゑ。ゑ行ゑ。ゑ行ゑ。ゑ行ゑ。
ゑ行ゑ。ゑ行ゑ。ゑ行ゑ。ゑ行ゑ。

い。宣。その間あまり自我の気を不食人と。酒でも飲んでこの
飲んで居る方が気がきんくくかるくなるような風で作八十二まさろ
そんを居る奴でも他人のスきくくなる人さんハ飽きもなの様ふと
胸ねりくくなるとおもふ。悪ハ眼ふ見くくなるい業ッ。ろんなる彩
りくくなるとなるらくくなせうが。何ぞも高飛のようなもの
で。難くくなるとなるり。邪見なよきくくと程
く可愛くなるとなるのが人情なる。新人。なぜこと言て出後
きの。彩が強く気を揃で。悪ハ悪くくなくくそも。今までも悪人

そうさうとうの様子に驚かれぬ。
しかして石屋の濱辺の南ぞのに石碑ぞ建てく。可
見がたし
おあげぞヨ。まだまだ今見た譯は
まだまだ。お茶とうんが自色も一
緑ふ。ナヨノ三おまつくふ
ぞう。同遠もあるまのー。
魚つらくとうかとまくつ連て
ぞ却茶きんが
ぞ
ぞ
ぞ

と
子の中でも。何れか毒でありませうと
どんな
きき
どく
とのお蔵が
あんげん。まるで
人
蓑虫あぶら川。鼠の糞の
ぶ
つる
ひげ
ひ
乾乃
ちぢ
縮まる。いや解ることも
ぶ
ぶ
ぶ